

宇都宮市と共同で進めているLRT(次世代型路面電車)整備事業についてお知らせします。

## ○芳賀町区間の検討状況について

現在、町では、約3キロメートルの町内区間についてLRTの軌道の導入ルートを検討しています。特に、工業団地管理センター前交差点から北上するルートについては、道路のどの部分に軌道を設置するのがよいのかを、現道の外側に入れる案も含めて、関係機関と協議を進めながら検討中です。

## ○営業主体

町と宇都宮市では、LRTの運行を担う営業主体を確保するため、民間軌道事業者と地元公共交通事業者への事業参画意向調査や事業者募集を行いました。その結果、官民連携の新しい会社による運営を検討することとし、現在、新会社の設立に向けて関係機関と協議を進めています。

今後は、8月を目途に基本的な設計を終え、その後町民の皆さんに対する説明会を開催する予定です。また、都市計画決定に向け、各種手続きも進めていきます。

LRT整備事業については、各地域の地区座談会においてご説明します。皆さんどうぞご参加ください。地区座談会の日程は17ページに記載してあります。

## ○需要予測の結果について

宇都宮市は昨年、同市・本町を含む7市7町を対象にした県央広域都市圏生活行動実態調査を行い、住民のある一日の行動を把握し、調査・分析を行いました。主な交通特性としては、前回調査時(平成4年)と比べ65歳以上の高齢者の外出数が著しく伸びていることや、ベルモール周辺やテクノポリス、清原工業団地など、市街地中心部から郊外へ、交通発生集中量の範囲が広がっていることが分かりました。

この調査結果に基づき、JR宇都宮駅東側の優先整備区間の開業目標である平成31年度を想定し、LRTの利用者数を予測したところ、採算が見込める可能性が高いことが分かりました。



▲富山市で運行されているLRT

## 運営の採算見込み

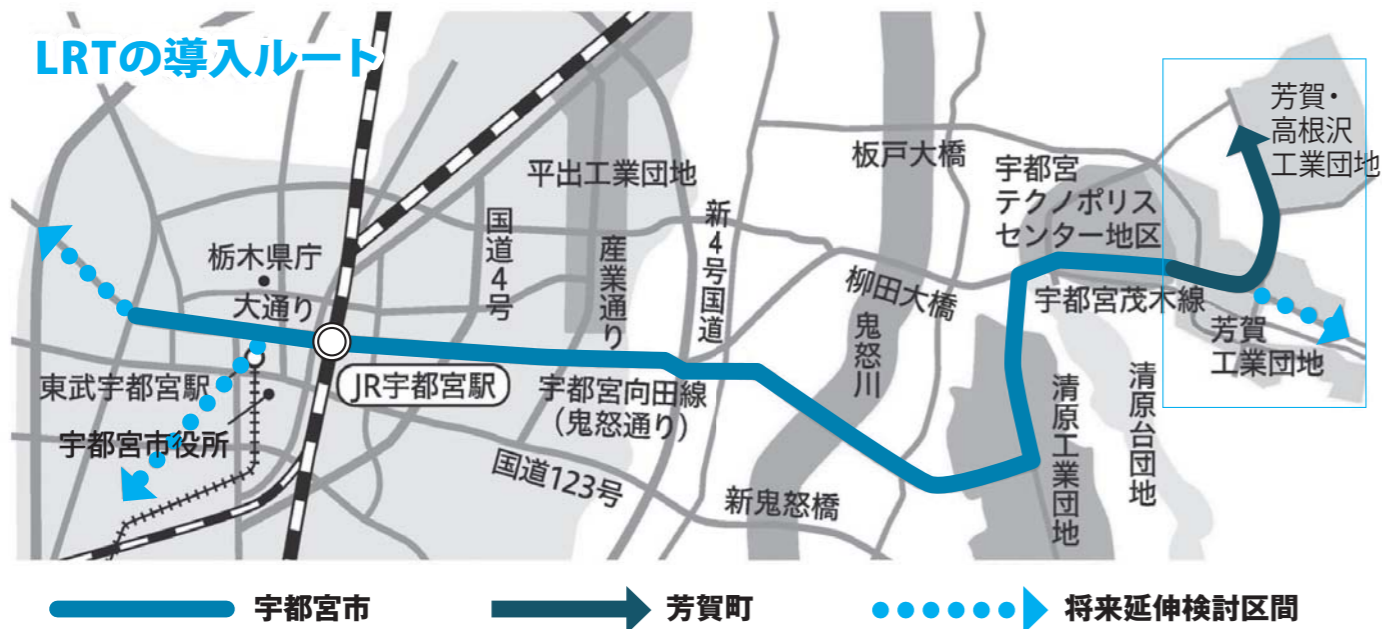
ケース	収入	支出
最小需要	9.65億円+α	7.15億円~9.76億円
最大需要	15.37億円+α	8.32億円~11億円

※休日の沿線施設利用者やイベント等の需要、調査対象圏域外からの来訪者の需要は含んでいないため、それらからの収入を「+α」として表記

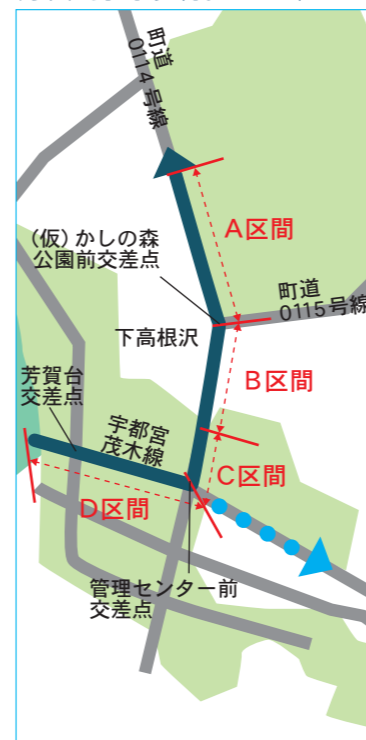
## 需要予測結果

目的	1日当たりのLRT利用者数(人/日)	
	最小需要※注1	最大需要※注2
通勤	12,757	20,276
通学	1,278	1,392
業務	220	310
私事	974	1,222
合計	15,229	23,200

※注1…各駅停車のみ、工業団地従事者数の減少などを想定  
 ※注2…快速運転有り、工業団地従事者数の増加などを想定



## 芳賀町区間(約3km)



## LRT導入イメージ

	道路西側導入案	道路中央導入案
A区間	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路の西側に軌道を敷設します。</li> <li>現道の4車線を維持します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路を拡幅し、現道の4車線を維持します。</li> </ul>
B区間	<ul style="list-style-type: none"> <li>地盤が低いため、高架構造も検討しています。</li> <li>現道の4車線を維持します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路の縦断勾配にあわせ、軌道を敷設します。</li> <li>道路を拡幅し、現道の4車線を維持します。</li> </ul>
C区間	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路の西側に軌道を敷設します。</li> <li>現道の4車線を維持します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路を拡幅し、現道の4車線を維持します。</li> </ul>
D区間	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇都宮市区間から引き続き、道路中央に軌道を敷設します。</li> <li>現道の4車線を維持します。</li> </ul>	